

◇ 模擬講義のテーマ ◇  
「公害問題の教訓」

◇ 《設問1》（模擬講義の要点整理）の解答例 ◇ ※下線部はキーワードの使用例

戦後の日本では高度経済成長の裏側で公害が社会問題となった。特に四大公害病は多く人が被害を受け、原因企業との裁判も起こされた。熊本水俣病はメチル水銀化合物による神経疾患で、被害者は偏見や差別にも苦しんだ。一度公害問題が発生すると解決には長い時間や多くの費用、労力が必要だ。公害病のような被害を発生させないこと、発生後であっても拡大前に迅速に対応するといった未然防止の重要性が、公害問題の教訓である。（198字）

※キーワード

高度経済成長、公害、四大公害病（≡公害病）、熊本水俣病、未然防止

◇ 《設問2》の論題と評価の視点 ◇

〔論題〕

熊本水俣病という公害病の発生やその被害の拡大を防止するためには「誰が、いつの時点で、どのような行動を」とるべきだったと考えられるか。講義の内容も参考にしながら、あなた自身の考えを600字以内の文章で説明しなさい。

〔評価の視点〕

- ・「誰が、いつの時点で、どのような行動を」という3つのポイントに漏れなく触れており、その内容も熊本水俣病の発生や拡大を防止し得るものだと判断できる場合には、得点率60%を基準とします。
- ・上述の3つのポイントのセットが複数提示されている場合には、得点率80%を基準とします。
- ・以下のどれかに当てはまる答えは、一定の減点をおこないます。
  - ア) 3つのポイントに関する説明に論理矛盾等がみられる。
  - イ) 480字未満である。
  - ウ) 行頭の文字下げや段落分けが不適切な箇所がある。
  - エ) 誤字・脱字等がある。